

平和な未来を作る
ために、あなたも
埼教組の一員に！

「教え子を再び戦場に送らない」の誓いを今こそ！

国際テロ問題に対して私たちは、次のように考えます。

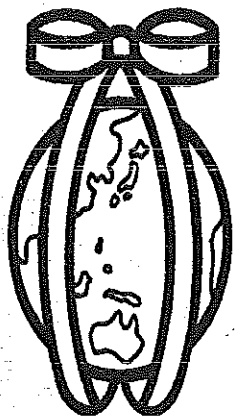
九月十一日に、アメリカで同時多発テロ事件がひきおこされました。それに対して十月七日夜に、米軍等によるアフガニスタンへの報復攻撃が開始されました。「戦争」の長期化により国際政治に大きな危機が生まれています。日本政府の対応は、米軍の報復戦争を無条件に支持し、「テロ対策」に乗じて、憲法違反の海外派兵を一気に実行に移すというものです。こうしたことは、私たち大人以上に、未来を担う子どもたちに大きな影を落としています。教育に携わる者として子どもたちに未来を保障するものとして、私たち教職員は、いま、何をなすべきなのでしょうかとともに考えていきたいと思います。

テロ行為はいかなる理由があろうと許すことはできない

アメリカで起こった同時多発テロ事件は、市民を巻き込んだ無差別テロであったという点でも、その被害者規模の大きさという点でも残忍極まりないものであり、その理由の如何に関わらず断じて許すことはできません。犠牲になられた方々や、いまだ行方がわからない多くの人々に深い哀悼の意を表します。

教育にたずさわる者として「やられたら、やりかえす！」は、決して認められない

しかし同時にこれを契機に武力を持つて報復を仕掛けるなどという行為が正当化されるものではありません。「やられたら、やり返す」は教育にたずさわる者として決して認められるわけにはいきません。米・英軍による報復攻撃で民間人の被害もでています。また一方でアメリカへの報復テロの情報も飛び交うなど、報復が報復を生むという泥沼の様相を呈してきています。その意味でも米英による攻撃は直ちに中止すべきです。

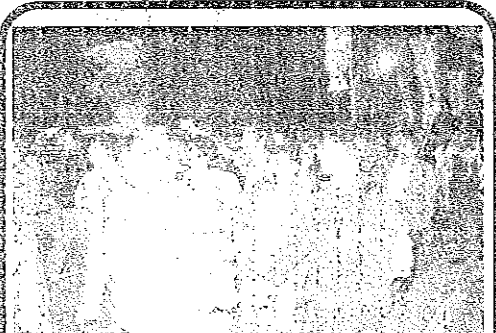


「テロ対策法」は憲法蹂躪の法律。平和的な解決を求める取り組みを！

日本では、ブッシュ大統領の進める軍事行動を無条件に支持し、「テロ対策特別措置法」を十分な審議なしに強硬に成立させました。これは、自衛隊の行動範囲を無制限に広げ、世界中のどこで起こった紛争に対しても自衛隊が参加できるようにしたもので、憲法蹂躪の法律です。残念ながら法律は成立してしまいましたが、これを発動させない取り組みと平和的な解決を求める取り組みをさらに強める必要があります。

「教え子を再び戦場に送らない」の誓いを今こそ新たに送らない」の誓いを今こそ！

「教え子を再び戦場に送らない」の誓いを今こそ新たに、テロ根絶と軍事行動反対のたたかいの前進のために全力を尽くしましょう。また、憲法と教育基本法に基づいて平和的な社会と生命の尊厳を守ることの大切さを実現する教育をめざしましょう。そして、今何ができるのか、何をしなければいけないのかを考えていきたいと思います。まずは自分の思いを語ることにしたいと思います。家族に、同僚に、父母に・・・対話と共同を広げていくことが大切です。子どもたちとともに平和と命の大切さにふれ、戦争と暴力をなくすにはどうすればいいか、考え、語り合いたまおう。未来を担う子どもたちとともに・・・。



【「テロ糾弾、報復戦争反対、自衛隊の海外派兵を許すな！」10.23国民大集会に参加した組合員】

- さいたま市教組は、テロ問題に対して多彩な運動を展開しています。
- 日本政府、国連、アメリカ大統領への署名・要請はがきの取り組み
 - 大宮・浦和・与野本町駅等での街頭署名活動
 - 地域集会やちょうちんデモ
 - 各種学習会の取り組み
- みなさんも、何らかの形で意思を表明してください。